

びわこ文化公園植物だより〔β版〕

ハンゲショウ ドクダミ科

- ・学名 *Saururus chinensis*
- ・園内の日本庭園に植栽、花期は7月



📍 ハンゲショウが見られる場所は文の最後！

水辺や湿地に生える植物です。葉の間から生える穂のようなものは小さな花が集まってできています。花期になると花に近い数枚の葉がおしろいを塗ったように白くなるのが特徴です。薬用や観賞用として植えられますが、日本にはもともと自生しており、琵琶湖や淀川沿いの水辺でも見られるところがあります。

「ハンゲショウ」という名前の由来には2つの説があります。ひとつは葉の半分が白くなることから「半化粧」とよんだとするもの。もうひとつは、ちょうど7月2日ごろの「半夏生(はんげしょう)」の時期に花が咲くからとするものです。「半夏生」は「半夏」(はんげ)とよばれる薬草(カラスビシャクのこと)が生える時期という意味です。ハンゲショウは葉が白くなる特徴から、他にも「片白草」や「三白草」ともよばれることがあります。

ハンゲショウの葉は普段は緑色ですが、花期が近づくとともに葉が徐々に白くなっていきます。

ハンゲシヨウの花自体はとても小さくて花びらもありませんが、かわりに葉が白くなることでそれが目印となり、花粉を運んでくれる虫を花に誘導することができるようです。この葉の白色は夏が過ぎればまた緑に戻ってしまうのもこの植物の不思議なところでは。

緑と白の美しいコントラストが今の時期は見ごろとなっています。びわこ文化公園では日本庭園の池の奥にあります。近くまで遊歩道がついています。ぜひ一度足を運んでご覧ください。

(龍谷大学農学部 吉野茜+濱口優輔)

❁ ハンゲシヨウは [ここ](#) で見られます
(Google マップにリンク。10m程度の誤差が出る場合があります)